

暫定的な試合審判法の試合分析

対象試合【暫定的な試合審判法】

第68回全日本剣道選手権大会：全63試合

第59回全日本女子剣道選手権大会：全63試合

比較対象試合【従来 of 試合審判法】

第67回全日本剣道選手権大会：全63試合

第58回全日本女子剣道選手権大会全：63試合

勝敗の内訳

表1 各大会における勝敗の内訳

	2-0	1-0	2-1	合計
前大会 男子	19.0%	73.0%	7.9%	100%
今大会 男子	14.3%	66.7%	19.0%	100%
前大会 女子	15.9%	79.4%	4.8%	100%
今大会 女子	14.3%	65.1%	20.6%	100%

延長に関して

表2 各大会における延長の有無

	延長無	延長有	合計
前大会 男子	35試合	28試合	63試合
今大会 男子	34試合	29試合	63試合
前大会 女子	29試合	34試合	63試合
今大会 女子	29試合	34試合	63試合

表3 今大会における延長回数の詳細

	延長1回	延長2回	延長3回	延長4回	延長5回	延長6回	合計
男子	14試合	8試合	4試合	1試合	1試合	1試合	29試合
女子	28試合	4試合	0試合	2試合	0試合	0試合	34試合

試合時間・鍰競り合い時間・分かれ宣告回数

表4 各大会の1試合当たりの平均試合時間・鍰競り合い平均時間

	試合時間	鍰競り合い時間
前大会 男子	7分54秒	3分25秒
今大会 男子	6分26秒	24秒
前大会 女子	7分35秒	3分47秒
今大会 女子	5分45秒	37秒

表5 各大会における「分かれ」宣告回数

	分かれ
前大会 男子	1回
今大会 男子	0回
前大会 女子	0回
今大会 女子	0回

有効打突に関して

表6 各大会における有効打突の内訳

	しかけ技	引き技	応じ技	反則	合計
前大会 男子	64本	12本	7本	2本	85本
今大会 男子	81本	7本	8本	0本	96本
前大会 女子	49本	19本	10本	1本	79本
今大会 女子	75本	9本	14本	0本	98本

表7 各大会における鰐競り合いからの引き技及び瞬間の引き技

	鰐競り合いになってからの引き技	瞬間の引き技
前大会 男子	81本	27本
今大会 男子	0本	82本
前大会 女子	251本	74本
今大会 女子	0本	160本

反則・合議に関して

表8 各大会における反則回数及び種類

	時間空費	不当な 鏢競り合い	場外	竹刀落とし	鏢競り合いになっ てから分かれ ない行為	分かれ方が 正しくない 行為	防御姿勢で 接近する行為 (勝負回避)	合計
前大会 男子		7回	3回	3回				13回
今大会 男子			3回	3回		2回	2回	10回
前大会 女子	3回	12回	3回	2回				20回
今大会 女子			2回		3回	4回	6回	15回

表9 今大会で反則に関わった合議回数

	反則に関する合議回数 (回)	反則となった合議回数 (回)
男子	4回	4回
女子	25回	13回

第56回中央講習会

2021.04.04

全日本剣道連盟

試合・審判委員会

委員長 香田郡秀

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法

【趣旨】

- 1 主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインの遵守(感染予防)
- 2 「つば（鍰） 競り合い」 および意図的な「時間空費」や「防御姿勢による接近する行為」の解決。
 - ・ これまでの試合は試合時間の3分の2以上が、つば（鍰） 競り合いである。これを無くして、立ち会いの間合からの攻め合いを中心とした試合展開へ。
 - ・ 剣道の試合にとって「勝負」の要素は大事であるが、姑息な勝負の仕方の是正。反則ギリギリの勝負ではなく真っ向から勝負をする態度を養う。
 - ・ つば（鍰） 競り合い問題は試合者の態度や心の問題が大きく影響し、規則だけで裁くのは困難である。試合者と審判員が共通理解し、一体となって、良い試合の場を醸成する。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

1. 試合者はつば（鰐）競り合いを避ける。接触した瞬間の引き技及び体当たりからの技（発声を含む）を積極的に出す。つば（鰐）競り合いになった瞬間、技が出ない場合にはただちに積極的に分かれる。試合者は審判員の「分かれ」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

2. 意図的な時間空費や防御姿勢（勝負の回避）による相手に接近するような行為は、規則第1条に則り反則を適用する。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

3. 試合者は、分かれる場合は主審の「分かれ」の宣告、あるいは試合者双方で分かれる場合にかかわらず、剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

4. 分かれる場合は剣先を開いたり、下げて分かれなない。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

5. 分かれる場合は双方がバラバラに下がらない。双方同じ気位で互いの鎬を削るようにして分かれる。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

6. 相互に分かれようとしている途中で技を出さない。この場合は技を出しても有効打突とはしない。一方が分かれようとしている場合に追い込んで打突した場合や分かれようと思わせかけて打突する行為は反則を適用する場合がある。また、分かれる途中で相手の竹刀を「叩いたり」「巻いたり」「逆交差」をしない。（審判員は状況や原因を踏まえた上で合議により判断する）

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの 暫定的な試合審判法

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

7. マスクとシールドの着用

マスクは、口鼻を隠し、正しく装着する。

シールドに関しては、口を覆うものは必須とし、目を覆うものは自由とする。

3. 特に試合者に事前に指導する事項

① 試合者は鰐競り合いを避ける。接触した瞬間の引き技及び体当たりからの技（発声を含む）を積極的に出す。鰐競り合いになった瞬間、技が出ない場合にはただちに積極的に分かれる。試合者は審判員の「分かれ」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。